

良知しゅんいち 活動報告



第12号

ご挨拶

いつも大変お世話になっております。浜名区の県議会議員の良知駿一です。従来よりもご報告が数か月遅くなってしまいました。申し訳ありませんでした。前回の第11号（2024年4月発行）からの活動をピックアップしました。ご覧いただければ幸いです。

さて、今年の春から秋にかけては、浜松市では近年と比較して豪雨による被害が比較的小規模でしたが、災害は豪雨災害だけではなくありません。今年1月には能登半島地震が発生し、8月には南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が初めて発表されました。あらゆる災害への対応は県行政の重要な役割のひとつです。県議会の議員としてしっかりと災害対策への取り組みをチェックしていきます。

また、今年は気温の高い日が続き、11月下旬頃になってようやく秋が深まってまいりました。そして、季節が進むにつれ寒さが厳しくなってまいりましたので、体調を崩さぬようお過ごしください。

議会活動

議会での活動の一部をご報告します。

代表質問

代表質問とは、主に議会の会派（議員グループ）の代表が、議案や行政の方針、地域課題について行政側（市長や知事、執行部）に質問や提案を行う機会のことです。

9月定例会において、会派ふじのくに県民クラブの代表質問にて私が登壇する機会がありました。質問の一部をご紹介します。



事務所のご案内

〒431-1304
静岡県浜松市浜名区細江町中川172-698
ラトゥール101

静岡県議会議員

良知しゅんいち事務所

連絡先
TEL : 053-523-7400
FAX : 053-523-7401
Mail : rachi0814@gmail.com
URL : https://rachi-shunichi.jp/

PROFILE

1982年 ● 8月14日生まれ
1995年 ● 気賀小学校 卒業
1998年 ● 細江中学校 卒業
2001年 ● 浜松商業高校 情報処理科 卒業
2005年 ● 静岡大学 情報学部 卒業
2007年 ● 静岡大学大学院 情報学研究所 修了
2018年 ● 株式会社 コーポレーション 退社 (研究開発に従事)
2019年 ● 静岡県議会議員 初当選 (浜松市北区(現浜名区) 選出:現在2期目)
2024年 ● 静岡大学情報学部 客員教授 就任

● 役職歴 総務・産業・厚生委員会副委員長、日印友好議員連盟事務局長 等

● 社会活動 浜松市消防団北支団第1方面隊細江第4分団 分団員、細江町まちづくり協議会 顧問、浜松市子ども会連合会北区支部 顧問、静岡県の子どもたちの多様性を拓くプロジェクト 顧問 等

【本県の地域公共交通への関わり方について】

Q1

地域公共交通は住民の移動権を守り、持続可能な社会づくりの基盤となる重要な手段であるが、維持が困難になっている。地域公共交通分野の先進地域である欧州では環境問題などへの対応として地域公共交通をインフラと位置づけ、補助金を活用する政策が進んでいる。一方、本県を始め国全体の地域公共交通に対する支援額は欧州と比べて非常に少なく、交通事業者の独立採算に基づく施策が限界に達している現状がある。

実効性のある施策として、行政がサービス水準を設定し補助金を提供するPSO契約の導入や、維持と廃止による費用を比較する「クロスセクター効果」の活用が挙げられる。これらにより、地域住民の移動権を確保しながら、持続可能な社会への転換を促すことが可能であると考えます。

本県も地域公共交通の強化を通じて、環境負荷の軽減や人口流出抑制を目指し、地域の状況に応じた支援方針を策定すべきである。持続可能な社会づくりのために、地域公共交通に対してどのように県が関わり、支援を行っていくのか、その考えを伺う。(良知)

A1

地域公共交通は、県民の日常生活を支え、暮らしやすく持続可能な地域づくりに欠かせない。しかし、人口減少や運転手不足により、その維持が厳しい状況にある。県では、鉄道やバスの支援に加え、デマンド交通や公共ライドシェアの導入など、地域に応じた最適化を進めている。

今後も、市町や事業者と連携し、誰もが移動に困らない質の高い地域公共交通サービスを提供し、持続可能な地域公共交通の実現に向けて取り組む。(交通基盤部長)

Q2

「持続可能な地域公共交通の実現」には「地域公共交通の社会の中での位置づけ」を議論していく必要があると考える。これまで通り、地域公共交通は商業輸送を基本とするのか、それとも欧州のように「地域公共交通は採算が取れないため、公共インフラとして行政がしっかり支えるべきだ」という位置づけに転換するのか、地域公共交通の社会における位置づけをどのように考えているのか伺う。(良知)

A2

地域公共交通は住民の生活を支える重要な社会インフラであり、県としてはこれを公共インフラと位置づけ、維持を基本に積極的に支援を進めていく。(交通基盤部長)

意見

短期的な視点ではデマンド交通等の交通モードの検討も必要だが、交通分野の時代の転換期ということを踏まえ、長期的な視点では「これまでの商業輸送ベースから行政支援による地域公共交通の維持へ」と位置づけを変えていく議論が必要ではないか。(良知)

他にも以下のような質問を行いました。以下の質問・答弁については議事録をご覧ください。

代表質問
議事録



- 若年層の県外流出対策について
- 外国にルーツを持つ子供たちの活躍支援について
- ふじのくに防災情報共有システムの運用について
- 運転免許事務のデジタル化の取組について
- 農福連携の推進について
- アニメなどのコンテンツツーリズムの推進について
- リニア中央新幹線整備に関する課題解決に向けた取組について
- 県行政におけるAIの活用について
- 観光マーケティングへの人流データの活用促進について
- 災害時における要配慮者の避難について
- 浜名湖花博2024を契機とした花き産業の振興について
- これからの職業教育について

委員会質問

議会における委員会とは、議会内で専門的な議題を効率的かつ詳細に審議するために設置される小規模な組織です。委員会は、議員全員が集まる本会議とは異なり、少数の議員で構成され、議案や課題を深く検討する役割を担い、定例会ごとに開催されます。

今年度、私は2度目の総務委員会への配属となり、副委員長を務めております。ピックアップした質問をご報告します。

【県庁内ネットワークのセキュリティー確保について】

Q1 県庁内のネットワークは三層分離されている。三層分離とは、「マイナンバー」「給与や文書管理など庁内の業務」「インターネット接続」の3つのネットワークに分けられた仕組みで、これまでそれぞれにPCが必要であった(1人に最大3台)。河野デジタル庁大臣(当時)はこれを1台のPCに統合する方針を示しており、国の指針を踏まえ、県としてどのように考えているのか伺う。(良知)

A1 県では、インターネット接続については仮想化技術により安全にアクセス可能としている。マイナンバーについては専用PCを必要としている。複数端末の無駄は認識しているが、情報保護の効果は一定と考えており、三層分離を堅持しつつ無駄を削減し利便性を高める方針である。(電子県庁課長)

Q2 三層分離は、物理的にネットワークを隔離することで安全性を確保する合理的な方法だが、利便性が損なわれる欠点がある。ゼロトラストの概念を活用することで、安全性をどのように確保できるか、県の考えを伺いたい。(良知)

A2 ゼロトラストの考え方は必要な技術と認識しており、三層分離の安全性を維持しつつ、端末の異常な挙動を検知するシステムを今年度導入予定である。今後も技術動向を踏まえ、最新技術の導入を進めていく方針である。(電子県庁課長)

意見 行政が扱う重要なデータを守るため、セキュリティーの確保には慎重な検討が必要である。セキュリティーはいたちごとであり、一度の投資で終わりではなく、継続的な予算確保が不可欠である。(良知)

その他の委員会質問については議事録をご覧ください。

委員会質問
議事録



日印友好議員連盟

超党派の県議で構成される「日印友好議員連盟」が2023年12月に発足し、私は事務局長を務めることになりました。この議員連盟は、本県と著しい成長が見込まれるインドとの友好を深め、経済や人材等について連携を図る目的で設立されました。

インドは本県が苦手とするデジタル分野に強みを持ちます。この理由は、高度な教育機関から輩出される優秀な人材と高い英語力を背景に、国際的な競争力を持つ点にあります。加えて、低コストで高品質なITサービスを提供できるコスト競争力や、政府の「Digital India」などの政策支援が、インフラ整備やスタートアップの成長を後押ししています。

12月下旬には、本議員連盟の役員を含めた県議10名と県内経済界等、総勢約70名の訪問団で、インドのグジャラート州の企業や大学を視察し、本県との友好協定を締結することを目標としています。

視察

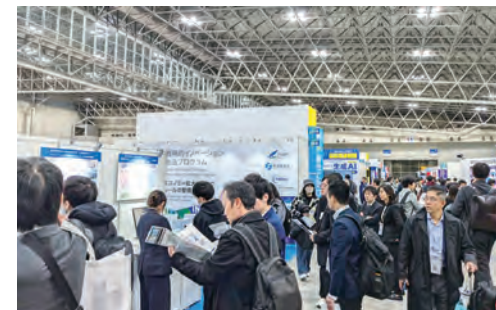
定例会と定例会の間の期間は、それぞれの議員が地元要望活動や政策研究に当てられる時間です。政策研究の手段の一つには現場等への視察があります。

本報告では、11月下旬に訪れた「XR・メタバース総合展」についてご報告します。

XR・メタバースとは、ごく簡単に説明するとコンピューターで作られた仮想空間や、現実空間と仮想空間を融合させる技術のことを指します。これらの仮想分野関連技術をわかりやすくゲームで例えると「ポケモンGO」や「フォートナイト」などがあげられます。特にメタバース市場においては、2022年の461億ドルから2030年には5,078億ドルまで拡大するという予測もあります。

本県ではこれら仮想空間分野の人材育成に力を入れ始めました。理由は市場の拡大に伴う企業誘致・創出と、若年層にとって魅力のある職場づくりです。

この本県の動きに伴い、私も「XR・メタバース総合展」にて最新技術の動向の調査と外国企業への本県への進出の呼びかけを行いました。本視察の調査結果を基に、人材育成の方法について担当課と議論してまいります。



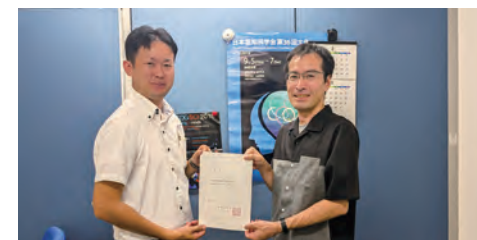
その他活動

8月1日付けで、母校静岡大学の客員教授を務めることになりました。

客員教授とは言え、今のところは教壇に立つ予定は無く、プロジェクト研究所の研究者としての活動になります。

このプロジェクト研究所は静岡大学情報学部の森田純哉教授が中心となり、「ローカルエコチェーンをステアリングするトラスト調和メカニズムに関する認知的検討」を研究テーマにしています。

このテーマは簡単に説明すると、SNS等のサイバー空間における信頼性の低い状態は、地元の人間関係等の現実空間の関係を結びつけることで信頼性を高めることができるのではないかと、いう仮説のもと実証を行い、行政機関の危機管理等に生かすことを目的としています。



このような情報リテラシーの問題は以前から個人的にも非常に危惧していますが、行政・議会ともに表面的な話に終始してしまっているのが現状です。プロジェクトの結果をしっかりと県政に反映できるように取り組んでいきます。

プロジェクト
紹介



お知らせ

お話しませんか？

私と1~数人でお話しませんか？
内容はなんでも結構です。身の回りの困りごとやご相談、私のこれからの社会に対する考えなど…。
お話の場を通じて政策へのひらめきが生まれることもありますので、ぜひお気軽にご連絡ください！
事務所への電話やメール、ホームページからの問い合わせなど、ご連絡方法は問いません。(連絡先は表面)



ラジオで県政情報を発信しています。

番組名 KENGI DE Night ! 放送局 FM Haro! (76.1MHz)
担当 榎 第1月曜日 19時30分~20時00分